

特別支援学級

(例) 知的障がい学級 算数科学習指導案  
(障がい種) (各教科/自立活動等)

令和 年 月 日 ( ) 校時 □ : □ ~ □ : □  
( ) 学校 たんぽぽ学級 (学級/組)  
4 名 (1 年 : 1 2 年 : 2 4 年 : 1)  
指導者 印

学年・人数等を記入し「学級構成」が見えるようにする

年間指導計画 ( ) 学級/組 ○月計画

○年 ○○科 ○月計画 P ○

1 学校で育てたい資質・能力

【教科】何学年のどの教科で行うか。教科年間計画の何ページの内容を行うのか記載する。

2 単元の概要

単元（題材）名・教材名		(例) かいものをしよう ・活動がイメージしやすい表現の工夫をする。
目 標		例) ・お金の種類や価値がわかる。 ・代金やおつりの計算の仕方がわかる。 ・お楽しみ会で使うものを買うことを通して、金銭の扱い方を身につける。
単元指導計画	＜全○時間＞	
	各自の学習内容とみとる観点を記載する。【関】【思判表】【技】【知理】 ・各教科は観点別に記載する。 ・領域別、各教科を合わせた指導等は観点別での記載でなくてよい。	
教材・教具	第1時…(例) お金の種類や価値の関係を知る。【知理】 第2時…(例) 代金やおつりの関係を考えている。【思考】 第5時…(例) 買い物トレーニング②をする。【技】(本時)	
	例) お金（本物）、お金の模型、位取り表、ブロック、買い物カード、商品（野菜、果物）、値札電卓、買い物計算ワークシート①、買い物計算ワークシート②、買い物計算ワークシート③ おこづかい帳	

3 単元について

(1) 児童生徒観

個別の教育支援計画の内容やレディネステストの結果などから、今までの学習で身に付いている資質や能力、不十分な点について記述する。(全体並びに個別の実態を記載)  
・学級全体の児童の実態を記述する。  
・単元で身につけさせたい力に対する個別の実態把握について記述する。  
・どこでどのようなつまづき（課題）があるかを分析し、指導観に記述する手立てと連動する。

(個別の実態記述例)

児童A（3学年）：知的障がい。金銭については、硬貨の種類がはっきりまだ理解できていないので繰り返し学習中。繰り上がりのない1けたのたし算とひき算は指を使って計算できる。……いつも受け身で指示を待っている。

児童B（4学年）：境界線、発達障がいの疑い。加法、減法の2ケタの繰り上がり、繰り下がりのある計算をゆっくりではあるが筆算で行うことができる。硬貨の種類も理解できているが、勘違いや思い込みが多いため、うっかりミスが多い。……自分の世界に入り込みやすい。

(2) 教材観

ねらい達成に向けて、どこでどのような手立てをするのか、評価の観点をふまえて指導のポイントを記述する。  
・児童（生徒）観で示した子どもの不十分な点を補う工夫（具体物、個への配慮）を具体的に記述する。  
・学習内容やその価値にせまる手順と方法を的確に記述する。  
・目標に照らしてその実現状況を観点ごとにどのように評価するかを記述する。

(3) 指導観

単元目標に関連させ、本単元での学習課題を明確にして記述する。  
・学習指導要領との関連を示す。  
・単元（題材）の学習内容とそのねらいを記述する。

4 本時の学習指導について ……全体目標、個別の目標を設定する。

(1) 目標

例) 全体目標 それぞれの課題に応じた買い物トレーニングを行うことができる。  
児童A：10円玉と1円玉を使っていろいろな金額を出すことができる。  
児童B：200円までのお金の計算をすることができる。  
児童C：予算内で購入することができるかどうか、判断することができる。

本時の授業のどこで、どのような指導の在り方や方法を提案しようとしているのか、学習指導要領を踏まえて簡潔にまとめる。

(2) 授業仮説

「○○○において、○○○すれば、○○○になるであろう。」  
場・内容の限定 方法・手だて 身に付けさせたい力（資質・能力）  
ねらい・めざす子ども

(3) 本時の展開（第○時）

教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討する。

学 習 活 動		指 導 上 の 留 意 点			評価項目(方法)
		・教師やヘルパーの支援、援助を記載する。T1、T2、H（ヘルパー） ・個別の指導内容や留意点が必要な場合は、個別に記載する。			
		児童 A	児童 B	児童 C	
導 入 ( ) 分	1	・問題提示の工夫 ・課題の焦点化 例)・本時の活動が明確に理解できるわかりやすい表現。 <div>めあて    かいものするためのトレーニングをしよう。</div>			どの観点で どのような方法 で評価するのか を記載する。
	3 (1)	例) ○お金の種類と名称 を確認する。  T1：場所を移動し、 お金模型と名称を 繰り返し確認する。	○習熟学習プリント の枚数を相談して 自分で決める。  T2：習熟学習プリン トの枚数を相談し て自分で決めるよ うに促す。  ○習熟学習プリント に取り組み、終わっ たら教師を呼び、解 答してもらう。	○商品リストから購 入したいものを選 び、おこづかい帳 への記入練習をす る。 T2：おこづかい帳 への記入の仕方や 本時の活動を確認 する。  H：T2の指示に従い 児童Cへ「書く」 支援を行う。	例) 算数科【技】  児童A ○200円までの金額 を出すことができ たか。 (行動観察、学習カ ード)  児童B ○200までのたし 算、ひき算の計算 ができたか。 (行動観察、課題プ リント、学習カー ド)  児童C ○予算の範囲内で購 入できるか判断で きたか。 (行動観察、おこづ かい帳、学習カー ド)
展 開 ( ) 分	「授業仮説」につなが る学習活動は分かりや すく表記する。(例： 太字ゴシック体等)	<div>・予想される児童生徒の反応と、それに対応した教師 の手立てを順序立てて記述する。  ・自分の考えを書く活動を取り入れる。  ・個別の学習になるが、全体でかかわり合い、学び合 う活動を取り入れる。</div>			単元の評価規 準を具体化し、 1時間に1～2 観点を評価する
	(3)				
ま と め ( ) 分	4	<div>まとめ</div>			
	5	例) ○自分の個人目標をふり返り、できたことを教師や友達と 確認し、称賛することで、達成感を味わうことができる ようにする。 <div>・「めあて」と正対した「まとめ」について記述する。今日の授業で 「何を学んだか」を明確にする。児童生徒の言葉を生かしてまとめる。 ・本時の学習で分かったことやできるようになったこと、次の課題など について、児童生徒に振り返らせる。</div>			

(4) 板書計画や ICT 機器の活用、場の設定の工夫等